

令和6年度事業報告書

I 基本方針への対応

基本方針である、森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進を図り「自然との共生」思想の普及を基本とし、「ふくしま県民の森」ならではの特色ある利用形態等を全国に向け発信し、各種事業の積極的な展開に努めた。

また、利用満足度の向上と質の高いサービスの提供、効率的な業務執行に努めるとともに、利用者の安全・安心を確保するため、大型野生動物の侵入対策を徹底した。

森林を活用した環境教育の機会として、将来の幼稚園教諭や保育士を目指す学生と幼児を対象としたプログラム「森のようちえん」の定期的な開催や、小学校の総合的な学習の受入れ等により、積極的に自然体験を楽しむ場を提供した。

また福島県が発信している教育旅行やSDGs探求プログラムに「災害対応キャンプ」を掲載し、災害発生時やその後の避難生活において困難にうまく適応できる力を習得するプログラムの普及に取り組んだ。

II 「ふくしま県民の森」の管理運営状況

令和6年度より、新たに5カ年の指定管理の指定を受け、継続して施設を管理している。施設が設置目的に沿って利用され、公平で質の高いサービスが提供できるよう、「ふくしま県民の森の管理に関する基本協定」や関係法令等を遵守するとともに、諸規程に基づき適切な運用に努めた。

さらに、利用者の満足度を高められるような施設整備に努め、森林での楽しみ方、森林の学びなどをサポートするプログラムや情報の提供を行った。

また、人件費をはじめとした物価の高騰に対応するため、事業収入の確保と効率的な業務執行、光熱費など経費の削減に努めた。

1 施設の管理・運営

森林学習施設区域（52.1ha）とオートキャンプ場区域（39.4ha）合計91.5haの「ふくしま県民の森」の施設と緑地について、季節ごとの状況に応じて管理・運営を行った。

(1) 施設管理

① 森林学習施設区域

森林館、森林学習館、ユースキャンプサイト、水道施設、温泉施設、駐車場等を計画的に管理した。

② オートキャンプ場区域

ビジターセンター、サテライトハウス、コテージ、トレーラー、オートキャンプサイト等を計画的に管理した。

(2) 緑地森林管理

① 森林学習施設区域

芝生管理や境界管理、森林の下刈りや除伐、枯損木の除去等を計画的に実施した。

② オートキャンプ場区域

幹線路・副園路の下刈りや落葉処理、テントサイト周辺の下刈りや除伐、危険木の除去を計画的に実施した。

2 施設の高規格化、老朽化対策

利用者の満足度の向上、施設の老朽化への対応及び施設管理の効率化を図るため、福島県から交付されている「県民の森管理受託収入」と利用収入から得られた「オートキャンプ場利用収入」を用いて、施設の修繕や備品の更新などを実施した。

しかし、年々施設の朽廃が進行し不具合の頻度も多くなっており、大規模な修繕の検討が喫緊の課題となっている。また不具合の原因が特定できないことも多く、修繕前の調査費用や労力の負担が大きくなっている。

(1) 県民の森管理受託収入の財源による対応

・ビジターセンター

ボイラー循環ポンプ等修繕、避難誘導灯修繕、サテライトF給水切廻し工事、第3駐車場舗装修繕

・コテージ

カメムシ、アリ駆除

・テントサイト等

野外テーブル・イス修繕

・森林学習施設区域

非常灯バッテリー交換、給水管修繕、危険木伐採

・管理車両修繕

(2) オートキャンプ場利用収入の財源による対応

・ビジターセンター

灯油ボイラーのバーナー油漏れ修繕、温泉ろ過機水漏れ修繕、ボイラー関

係各所修繕、常設トレーラー内線電話障害修繕

3 利用者の安全確保対策

- ・強風、豪雨等の自然災害による被害発生防止対策（巡視、誘導等）
- ・大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための巡回、監視カメラによる監視、森林下層木の伐採、電気柵の管理
- ・スズメバチの巣の駆除
- ・定期消防訓練の実施

4 フォレスト・エコ・ライフ推進の事業

(1) 森林学習施設区域の運営

小学校を中心とした利用や夏休みの団体利用が中心であるが、利用は微増となっており、利用者数は目標を達成できなかった。前年度まで実施していた受託事業の「自然あそび」が終了したことも一要因となっている（令和5年度利用者数300人）。

NPO法人福島県もりの案内人の会の啓発活動により、県北地域を中心に学校利用があるが、その他地域の学校利用や、近隣の幼稚園・保育園の利用が減少している。近隣市町村では全天候型・空調完備の屋内学習施設が増加しており、雨天時でも予定を変更せず実施できることから、そちらに利用者が流れていると考えられる。また、自然体験学習の予算が削減されておりバスの借上げの予算が確保できない、森林学習施設区域内のトイレが和式のため利用しにくいという声も聞いている。

ア 森林学習施設区域利用者数 (単位：人)

年 度	区 分	利用者数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	14,109	
令和5年度	前年度	9,687	68%
令和6年度	当年度	9,268	65%

イ 森林館の入館者数 (単位：人)

年 度	区 分	入館者数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	3,343	
令和5年度	前年度	2,764	82%
令和6年度	当年度	2,499	74%

ウ 学校・教育団体利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	利用者数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	4,317	
令和5年度	前年度	3,445	79%
令和6年度	当年度	3,597	83%

(2) オートキャンプ場の運営

オートキャンプ場については、利用サイト数、利用者数および収入のすべてにおいて前年度を下回った。

主な原因は夏以降の悪天候の影響である。異常気象により猛暑日が増加し、熱中症のリスクからか夏の利用が減少した。また、予約が満室だったお盆時期や連休時期の台風通過、週末ごとの天候不良が重なり、直前キャンセルが増加した。秋口の利用は回復に転じたものの、冬季は大雪による交通網への影響がありキャンセルが多発した。さらに物価高騰によるレジャー控えもあり、単価の高いコテージやキャラバンサイトの利用が伸びなかった。

また、前述の気象要因に加え、倒木や落枝、融雪時のぬかるみ等、安全性の確保ができないためサイトの提供を中止する場合もあった。

リピーターの割合は増えているため、宿泊施設のメンテナンスをしっかりと行い、安全・安心な施設の提供に努めていることが利用者にも十分理解されているものとする。

日帰り温泉の利用者数は、サウナの流行もあり平日でも利用が多く、目標を達成し、実績も過去最高となった。低温サウナや温泉の泉質の良さが地元で周知されていることに加え、21時まで営業していることが理由として挙げられる。仕事帰りにも立ち寄りやすく、幅広い層からのリピーターを得ていると考えられる。

ア オートキャンプ場利用者数（料金対象外の幼児を除く）

(単位：人)

年 度	区 分	利用者数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	40,292	
令和5年度	前年度	36,739	91%
令和6年度	当年度	31,068	77%

イ オートキャンプ場利用サイト数(※コテージ、常設トレーラー、テントサイト合計)

(単位：サイト)

年 度	区 分	サイト数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	12,416	
令和5年度	前年度	12,833	103%
令和6年度	当年度	10,674	85%

ウ オートキャンプ場利用収入

(単位：千円)

年 度	区 分	収入金額	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	101,925	
令和5年度	前年度	107,882	105%
令和6年度	当年度	96,657	94%

エ 日帰り温泉利用者数

(単位：人)

年 度	区 分	利用者数	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	14,338	
令和5年度	前年度	15,412	107%
令和6年度	当年度	16,840	117%

オ 日帰り温泉利用収入

(単位：千円)

年 度	区 分	収入金額	令和元年比較
令和元年度	コロナ前	8,274	
令和5年度	前年度	9,652	116%
令和6年度	当年度	10,440	126%

Ⅲ 福島県からの受託事業

財団の基本理念に沿った事業を受託し実施した。

1 福島県農林水産部委託事業

(1) 森林づくり指導者養成事業

福島県が認定するもりの案内人を養成するための講座及び森林整備ボランティアの核となるグリーンフォレスターを養成する講座を運営したほか、財団スタッフが3科目の講師を勤めた。

- ・ もりの案内人養成講座の運営
5期10日間開催。受講者数31名（新規24名、継続7名）
- ・ グリーンフォレスター養成講座の運営
延べ8日間開催（受講者1名）

（2）森林ボランティアサポート事業

学校等の教育機関や子ども会などの団体から依頼を受け、NPO法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請や、森林ボランティア活動の情報収集、森林整備用道具の貸出と整備道具の使い方について動画を作成した。

また、ホームページを運用し、情報の提供を行うとともに、森林ボランティア団体の活動状況取材し、情報紙を発行し、広報を実施した。

さらに森林ボランティアとして活動するために必要な技術を学ぶ研修会の実施と、イベント運営のスキルアップのための植樹イベントへもりの案内人の参加を調整した。

主要実績

指導者要請依頼件数	39件
情報収集件数	182件
森林整備道具貸出件数	8件
ホームページ閲覧件数	2,667件
広報紙	1回（配布先762箇所、部数4,000部）
動画	1回（クサビとフェリングレバーの使い方）
スキルアップ調整	20件（6箇所分）
育成研修	1回（受講生15名）

（3）森林文化公開体験事業

森林文化の現況を把握し未来へ継承するため、有識者による検討委員会での検討をもとに「森林文化記録映像」を制作したほか、県内の森林文化を学び体験する出前講座、体験講座を実施した。

- ・ 森林文化記録映像（南会津町の里山遊び及び境の神お人形様）
- ・ 出前講座5回（実施日、開催場所、内容、参加者数）
 - ① 7月28日南相馬市（上川崎手漉き和紙の歴史と伝承）参加者8名
 - ② 8月4日二本松市（竹細工）参加者10名
 - ③ 10月24日田村市（上川崎手漉き和紙の歴史と伝承）参加者20名
 - ④ 2月16日二本松市（上川崎手漉き和紙の歴史と伝承）参加者14名

- ⑤ 2月18日大玉村（上川崎手漉き和紙の歴史と伝承）参加者10名
- ・体験講座5回（実施日、内容、参加者数）
 - ① 8月28日（塗り箸研ぎ出し体験）参加者15名
 - ② 9月21日（はちみつ収穫体験）参加者10組
 - ③ 10月10日（うちわ漉き体験）参加者14名
 - ④ 10月11日（うちわ漉き体験）参加者10名
 - ⑤ 11月4日（花炭づくり）参加者15名

IV 自主事業の実施

1 オートキャンプ場関連事業

(1) ショップ（物品販売）・カフェ・物品貸付事業

キャンプ場利用者の利便性向上のため、ショップでの物品販売、カフェの運営、レンタル品貸付の事業を実施した。

日帰りの散策や温泉の利用者増に伴いカフェ売上も増加した。レンタル事業については、アウトドア商品が安価で販売されていることもあり利用は伸びなかった。

物品販売・貸付・カフェ事業収入

（単位：千円）

年 度	区 分	ショップ売上 （物品販売）	カフェ売上	物 品 貸 付
令和元年度	コロナ前	14,436	3,160	3,618
令和5年度	前年度	14,170	3,326	1,671
令和6年度	当年度	12,544	4,242	1,491

(2) FEL制度事業

FELメンバーズは、先行予約やキャンセル待ちといった予約に関する特典のほか、宿泊ポイントにより利用料金が割引される特典を付与している。最近では直前予約が多いため、先行予約やキャンセル待ちを目的とした入会が減り、新規入会者数は減少した。

新規登録及び更新の人数

（単位：人）

年 度	区 分	登 録 者 数	新規、更新件数
令和元年度	コロナ前	1,529	新規817、更新712
令和5年度	前年度	1,057	新規255、更新802
令和6年度	当年度	967	新規195、更新772

2 ビジターセンターにおけるサービスの提供

(1) キッズプレイス提供

ライブラリー裏にキッズプレイスを設置し、日帰りや宿泊の利用者に木のおもちゃ等で遊べる空間を提供している。木の棒のプールなど木の温もりが感じられる遊具は家族連れに好評である。

(2) 森林との共生関連図書の自由閲覧

自然やアウトドア関連へ関心を持つきっかけとなるよう、様々な本を集め、自由に閲覧できるようにしており、家族連れを中心に利用された。

3 環境教育事業

(1) 自然体験活動推進事業

子どもを対象とし、人と森林との関わり、森林の大切さを知ることを中心に、自然を身近に感じられる体験プログラムを実施した。また、活動を希望するNPO法人等の団体へ活動の場を提供した。

- ・繁忙期のイベント（自然観察、木工クラフト、ツリーイング等）

- ・森のようちえん

① 6月23日・・・(参加者：学生4名、幼児18名)

② 7月21日・・・(参加者：学生5名、幼児13名)

③ 9月29日・・・(参加者：学生9名、幼児12名)

④ 10月27日・・・(参加者：学生11名、幼児13名)

⑤ 12月1日・・・(参加者：学生9名、幼児16名)

(2) 森林保全活動推進事業

ふくしま生き物調査発表会を開催し、福島大学の学生に県内の生き物の調査結果を発表する機会を提供した。また、小学生等のふくしま県民の森での森林環境教育を促進するため、森林館の展示物の解説や自然体験の活動事例などを紹介した資料を、ホームページに掲載した。

(3) 災害対応キャンプ普及事業

野外活動（キャンプ）の知識や技術、道具類を活用し、大規模な自然災害時においても困難にうまく適応できる力を育てる災害対応キャンプを実施した。

- ・8月16日（福岡大学 参加者30名）

(4) 講師派遣事業

学校等の教育機関、団体の派遣要請により専門的知識を有する財団職員を講師や有識者として派遣し、「森林との共生」思想の普及推進につとめた。さらに、

専門性の高い学校等からの観察会の依頼に対応するため、財団スタッフが講師を務めた。

- ・ もりの案内人養成講座
- ・ 川内村平伏沼観察会
- ・ 令和7年度福島県環境創造センター附属施設環境学習会等企画運営業務に係る公開型プロポーザル審査会
- ・ 森林環境教育支援業務
- ・ 渋谷教育学園理科部等

4 福島県の森林再生に向けた取組

(1) 木質チップボイラーの運用

福島県が設置した木質チップボイラーの適切かつ効果的な運用を図るため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努め運用した。

(2) ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会事務局

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の福島県協議会（窓口）としての業務を担い、森林整備等を実施する県内9の民間団体へ、交付金の交付事務や指導、国や県、市町村との調整を行った。

5 植樹緑化事業

(1) サクラ植栽事業

平成25年度に植栽したサクラの適切な管理を行うため、(公社)ゴルフ緑化促進会の支援を受けて育樹を行っている。今年度は、春先の残雪が多く、予定より少ない面積となったが、施肥や病害枝の除去、除草など行うとともに、病虫害防除、土壌改良等を行った。

また、シカの食害対策のネット張り、幹へのリンロンテープ巻きを実施した。

(2) JR貨物グループの森林づくり事業

福島県、日本貨物鉄道株式会社、当財団において「森林づくり協定」を締結し、令和5年度から5年間にわたり森林づくり活動を行っている。既存の森林との調和を図りながら、森林環境教育に役立つよう、広葉樹を生かした森林を形成していくため、2年目の対象森林（32a）の整備と植栽（205本）を行った。

6 調査・研究事業

「自然環境基礎調査事業」として、イノシシ・クマ・ニホンジカの調査を行った。森林館にクマ・イノシシの生態についてのパネルを設置し通年で一般利用者向けに情報を提供した。また、野生動物と共生する森林づくりを目指し、福島大学食農学類の農林サークルと連携し森林整備を実施した。

人工池の森林環境教育活用を目的に、福島大学の塘教授に生き物調査を依頼し、アドバイスを元にNPO法人福島県もりの案内人の会との協働により池の環境整備を実施した。

7 地域振興と社会貢献

(1) 地域振興

① 県内観光地等の振興

県内各地の観光地や近隣の観光施設などを、フロントを中心に案内や紹介を行った。

② 授産施設支援

ビジターセンター、ショップにおいて県内授産施設製品の販売を行った。

③ 地場製品の販売促進

農産物や手工芸品などを中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介及び活用を行った。繁忙期には生産者が直接かかわる試飲販売会を行った。

④ 地元自治体や地域企業の活用

大玉村「ふるさと納税事業」、ふくしま田園観光圏「教育旅行誘致事業」に参加した。また、大玉村の婚活事業に協力し、会場とプログラムの提供を行った。

⑤ 学校教育活動支援

学校等からのインターンシップ、職業体験、ボランティア活動など社会体験事業を受入れた。また宿泊学習等を受入れ、プログラムの提供や講師派遣を行った。

(2) 社会貢献

① F E L 助成金事業

「森林との共生」を基本理念として、森林を活用し、自然とふれあい楽しむ体験をとおして自然の大切さを広く県民に普及啓発する活動を行う団体に対し、助成金を交付した。(交付先：NPO法人福島県もりの案内人の会)

② 学校教育利用割引

未来を担う子どもたちが、癒し・教育・健康増進などに有効な森林の持つ効用を体験できるよう、オートキャンプ場のフィールドを利用しやすい料金で提供する財団独自の割引、「学校教育利用割引50%OFF」を実施した。

令和6年度 財団中期計画（令和6年度～令和10年度）の推進状況

(1) 森林学習施設区域利用者数等

ア 森林学習施設区域利用者数 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
令和4年度	基準年		8,844	
令和6年度	当 年 度	9,600	9,268	96%

イ 森林館の入館者数 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
令和4年度	基準年		2,173	
令和6年度	当 年 度	2,880	2,499	86%

ウ 学校・教育団体利用者数 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
令和4年度	基準年		3,302	
令和6年度	当 年 度	3,840	3,597	93%

(2) オートキャンプ場区域の利用者数等

ア オートキャンプ場利用者数 (料金対象外の幼児を除く) (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
令和4年度	基準年		36,572	
令和6年度	当 年 度	37,700	31,068	82%

イ 日帰り温泉利用者数 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
令和4年度	基準年		13,346	
令和6年度	当 年 度	14,100	16,840	119%